

第5回府中市子ども・子育て会議報告書

- 1 日 時：令和7年2月18日（火）14：00～15：45
- 2 場 所：府中市役所2階 第一応接室
- 3 出席者：吉 原 純（会 長） 金 子 努（副会長）
広 瀬 和 彦（委 員） 板 橋 千代美（委 員）
河 村 昌 子（委 員） 宗 藤 正 典（委 員）
田 中 いづみ（委員）

※土井健嗣委員は欠席

※株式会社名豊（計画策定業務委託事業者）より1名同席

4 概 要

- (1) 開会
- (2) 議事

① 第1期府中市こども計画について

第1期府中市こども計画について

- ・第1期府中市こども計画（案） 資料1
- ・第1期府中市こども計画概要版（案） 資料2-1
- ・第1期府中市こども計画概要版（こども版）（案） 資料2-2
- ・施策体系（事業）一覧 資料3
- ・第1期府中市こども計画（案）に対するパブリックコメント（意見募集）
の実施結果について 資料4

(3) 報告

① 保育所等の現状について 資料5

- (4) その他
- (5) 閉会

以下、主な質疑及び意見等（※会長、副会長の発言についても委員として表記）

【議事①】第1期府中市こども計画について

委 員 パブリックコメントの8名33件というのは前向きに捉えている方が多く、それだけ関心を持っている人がいると感じた。その中で、子育て支援センターを日曜日にも開設して欲しいといった意見は違うと思う。しかし、ニーズを把握するのは大事であり、ニーズを把握する方法として、パブリックコメントは有効であると思う。私たちが気付かないようなところに、ご意見をいただいている印象も受ける。

陣痛タクシーや産後ケアの宿泊施設などについても当事者の方は情報を知っているの、こうだったらいいなということでパブリックコメントに表れてい

るのではないかと思います。貴重なご意見としては受け取りたいと思う。

委 員 これだけ意見が出るというのはすごく関心が高いことだと思う。

委 員 こども計画が関係部署と連携をはかることができたらいと思う。子供読書計画を5年に一度策定するが、そういった計画とも繋がっていかなければいけないと改めて感じた

事務局 支援センターの休日開設、陣痛タクシー、産後ケアの施設等については、すでにたくさんのお声を直接いただいている。支援センターについては土日で開けている日もあるが、全部ではない。職員体制やシフトのこともあり、今すぐ開設日を増やすことは難しい。利用状況や保護者の声等々により、都度の変更もあると思う。土日を開けて平日を休むとまたそれはそれでまた違ったお声も聞こえてくる。

陣痛タクシーもなかなか民間との連携が難しいと感じているところである。現在福山市で1件だけ事業を実施している事業者がいるが、府中市へ行くこともできる、また夜でも乗務員がいれば対応できると言っている。

産後ケアについては、近くに助産院や家族ぐるみで預かってくださる施設がないので、福山市の助産院に行っていただく状況である。そういった施設が市内にもあればいいと思う。

今年度から助産師に産前産後のケアをお願いしている。ここは令和7年度の重点課題となっていた。来年度は助産師1名を常駐フルタイムで採用できた。今できる府中市の取り組みである。

委 員 助産師の講座をよくされていると思うが、当事者だけではなく、周りの人たちも含め府中市はこういうことをやっているということを知ってもらうことが大切。当事者でないと興味を持たない。周辺の人も含めて巻き込むというのは、すごく大事だと思う。

事務局 産前に行くパパママ教室はおじいちゃんもおばあちゃんも家族ぐるみで来ていただきたい。沐浴や抱っこ、少しずつ変化する離乳食なども経験してもらいたい。おっしゃるとおり地域ぐるみ、家族ぐるみでサポートしていく方法に力を入れていかないといけないと思う。

委 員 ちゅちゅで日帰り型産後ケアができないかと思う。こどもをみていただきながら体を休めるところがあったらいいと思う。

事務局 昨年度ボランティアの方にも協力をいただいて試行した。その時は日にちも限定して予約制で実施したが、今寝たい、今こどもと離れたいということへの対応となると違う。どういった方法がいいか検討が必要。ヘルパーを導入し、家でこどもをみてもらう、寝させてもらうことができればと考えているところである。

委 員 パブリックコメントについて、可能性としてできないものについては理由をきちんと伝えた方がいいと思う。

委 員 概要版のこども版の見せ方についてはもう少し工夫した方がよい。

事務局 ご要望の産科小児科についてはどのような要望の場においても出てくる。要望の順位としては高いものであると捉えている。そういった中で市のできること、やっていることはお伝えしている。概要版のこども版については先ほど担当から説明があったと思うが、少し時間をかけて作りたい。計画の本編についてはこの会議でほぼ終了とさせていただくことになるが、こども版については対象者を小学生にするのか、中学生・高校生年代にするのかで異なってくる。対象者、内容、配布方法も含めて検討し、時間がかかるかもしれないが、持ち越しをさせていただきたい。またご意見を頂戴できればと思う。

委 員 パブリックコメントについて、8名33件は少ないように思うが、適正な数字なのか。

事務局 (株) 名豊

計画の種類や自治体の規模にもよるが、1件もない自治体もある。8名は比較的答えていただいた方ではないかと思う。

委 員 件数がどうだったかというよりも、市民の声として需要、ニーズが拾えたという判断ができるかどうかだと思う。パブリックコメントとして声をいただいて、計画に落とし込まれたものはあるか。

事務局 いただいたご意見の中に外国籍家庭への支援が重要施策になるのはおかしいのではないかとのご意見があった。しかし市としては必要と考えており、外国人人口が増加していることの資料を追加し、課題のところにも明記し、市として取り組むということでの修正をかけた。それ以外については、修正はかけていない。細かい事業についてのお問い合わせが多く、計画では細かい事業まで記

載はできない。またすでに事業として実施しているものも含まれている。こども計画は市の方針を示すものなので、細かい事業までは落とし込めないことはご了承いただきたい。

事務局 パブリックコメントは調査と全くイコールではない。この計画に基づいてどういったことをやっていくかについては今後の施策展開となってくる。計画に入っていないので全くしないということではない。

委 員 同居・近居支援については削除したとのことだったが、取組みはしないということか。

事務局 同居・近居支援については令和5年度と令和6年度の2年間実施した。市内に祖父母のいる子育て世帯が転入した際などに家賃や住宅建設などの費用を補助する事業である。

住宅担当課及び定住移住担当課等とも協議を重ねてきたところであるが、いったん事業としては凍結した。今後全くしないというわけではなく、この2年間の実績をもとに今後どうしていくかを関係各課と検討していくこととなった。

委 員 補助金や取組みをなくさないで欲しいのではない。いろんな課題がある中で、近くに家族がいれば助け合ってなんとかかなったのにというところが薄くなってしまって、産後ケア施設に入らなくてはいけなくなったり、タクシーを使わないといけなくなったりなどの状況になる。人手がない中で、そういうことも大切だということを啓発し続けていくことが必要だと感じる。

もう一点、市がどのような考えでどういうことをされているのかを知るにはどこを見たらいいのかということについて前回も話があった。ホームページに掲載しているという回答だったが、どこを見れば自分が必要としていることにめぐり合うのか、また府中市がどういうことをしようとしているのかということが前向きな意味で確認できたらいいと思う。

委 員 府中市はPRが下手だと思う。毎日府中市のホームページを開く人が何人いるのかと思う。作ったチラシをいかに活用するかが大切だと思う。いい講習を開いても、いい先生が来てくれても知らなかったら意味がない。

委 員 他市町で、担当課に関わらず補助金が一覧にしてあるので一目見てわかるようになっているところがある。

委 員 概要版は配布するのか。

事務局 配布先は検討中だが、概要版も配布予定である。

委 員 基本理念が非常に見やすいので、もっと前のページに出ないのかと思う。

事務局 構成についてはいただいたご意見を参考に再検討する。

委 員 「若者が挑戦する」、「ウェルビーイング」など伝わりにくい。目玉になるものを言語化して示すと分かりやすい。挑戦することが今の府中市の若者たちの幸せで幸福度を上げることで、挑戦することで体や精神を養っていくというアプローチの仕方もあると思う。魂がこもった熱量のある理念であって欲しい。なにがしたい？これがしたい！と胸を張って言えるものがカッコいいと思う。

委 員 計画は計画でいいと思う。ただ、これを概要版やこどもに配るときにはインパクトのある言葉を添えて配る方がメッセージは伝わるということはあると思う。

委 員 こども計画の見えないところに、関係者の働き方があるということを大事にして欲しい。

委 員 計画が絵に描いた餅にならないよう、市民の皆さんに知って活かしていただきたい。保護者の方が集まるようなところに計画のポスターを掲示するなどしてアピールしてはどうか。

パブリックコメントについては、計画に反映するもの、しないものがあるわけだが、こういう形で活かさせていただきましたというのを見える形で返すことは大事だと思う。

【報告①】 保育所等の現状について

委 員 入所率というのは100%というのが当然なのだろうが、だいたい適正はいくらくらいか。

事務局 3歳以上になると府中市においてはほぼ100%の児童がいずれかの施設を利用している状況である。

事務局 100%が適正ではない。就労要件があるので、就労されておられる方ご希望があれば入所していただく。目標値は100%ではない。

※全議事了承